HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	地域発映像コンテンツの可能性 : 映画「鷲宮☆物語」製作秘話
Author(s)	山村, 高淑
Citation	「コンテンツツーリズム研究会・第1回総会・第2部」配布資料. 2010年11月27日. 於鷲宮西コミュニティセンター（埼玉県久喜市）
Issue Date	2010-11-27
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/44381
Type	proceedings
Note	（主催）コンテンツツーリズム研究会・鷲宮商工会 共催 （後援）埼玉県, 久喜市
File Information	contents tourism forum part2 Panel 20101127.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

2010 年 11 月 27 日（土）　16:00～18:40　於鷲宮西コミュニティセンター
コンテンツツーリズム研究会・鷲宮商工会 共催
コンテンツツーリズム研究会第二部

地域発映像コンテンツの可能性

～映画「鷲宮☆物語」製作秘話～

◆開催の趣旨◆

2008 年の北川監督からの電話で始まった地域映画『鷲宮☆物語』プロジェクト。翌 2009 年 3 月 3 日にネット配信を開始した告知映像『鷲宮☆物語～序章～』は、2 ヶ月で約 12,000 アクセスを記録。同月、中小企業庁「地域資源∞全国展開プロジェクト」補助金助成事業として、鷲宮町商工会の「地域発映像作品化を核とした新観光産業育成プロジェクト」が採択され、本編製作を開始。2010 年 3 月に堂々の完成。3 月 22 日の鷲宮町内での上映会を経て、4 月 10 日～23 日まで、ワーナー・マイカル・シネマズ羽生にて劇場公開されました。

同映画は、シナリオを一般公募、一部配役を除く大半の出演者も地域住民とアニメファンの皆さん、オール鷲宮ロケ、と、企画当初から、とことん地域住民とアニメファンの目線にこだわったものでした。地域映画の多くが、作品の芸術的クオリティや商業的な可能性といった「映画市場」重視の姿勢をとる昨今、こうした『鷲宮☆物語』の徹底した「住民と町のお客さん」重視の姿勢は、ひときわ目を引くものがありました。言い替えれば、他の地域映画はその映画を完成させること自体が目的になっていることが多いのですが、『鷲宮☆物語』の場合は、映画を製作することで新しいコンテンツを創り、住民とファンでそのコンテンツをとことん遊び倒そうとしている点（もちろん良い意味で）に大きな特徴があるように思います。

こうしうた姿勢は芸術性や商業性を重視する映画製作の分野から見れば、ふざけた姿勢と批判されるのかもしれません。しかし、これを地域振興やまちおこしといった観点から見れば、地域住民と来訪者が協力してコンテンツを創造していくという、コンテンツツーリズムの非常に素晴らしい取り組み事例と見ることも可能なのです。

特に、当初、「予算」「時間」「ノウハウ」のいずれもが無かったにも関わらず、その地域を愛する「人」が集まって、とにもかくにも作品を完成させてしまったプロセスは、コンテンツツーリズムの大きな可能性を感じさせます。

こうした背景を踏まえ、このパネルディスカッションでは、監督の北川敬一氏はじめ、製作に携わった方々にご登壇頂き、それぞれ異なるお立場から、『鷲宮☆物語』製作の経緯を振り返り、地域発映像コンテンツの持つ可能性と課題について探ってみたいと思います。

このパネルディスカッションが『鷲宮☆物語』というローカル・コンテンツの更なる展開に繋がっていくきっかけになれば幸いです。

山村高淑（北海道大学観光学高等研究センター准教授）

◆登壇者◆

北川敬一

（きたがわけいいち／映画監督・プロデューサー）

島田邦弘

（しまだくにひろ／埼玉県産業労働部観光課地域資源・ﾌｨﾙﾑｺﾐｯｼｮﾝ担当主幹）

島田吉則

（しまだよしのり／鷲宮商工会広報委員・島田菓子舗）

岡本健

（おかもとたけし／北海道大学大学院博士後期課程）

松本真治

（まつもとしんじ／鷲宮商工会経営指導員）

徳武英章

（とくたけひであき／公益財団法人ユニジャパン企画グループ）※司会

山村高淑

（やまむらたかよし／北海道大学観光学高等研究センター准教授）※司会

◆「鷲宮☆物語」企画～そもそもの狙い◆

※中小企業庁「地域資源∞全国展開プロジェクト」補助金助成事業向け申請書から抜粋。

■事業名

「地域発映像作品化を核とした新観光産業育成プロジェクト」

■事業概要

アニメのロケ地としての経験を活かし、何気ない鷲宮の風景を、鷲宮独自の資源である人的ネットワーク・知識を用いて映像作品化、「萌え文化」を核とした観光資源並を創造、中長期的には地域発のコンテンツ観光産業として複合展開させる。

■地域資源についての考え方

・ 本プロジェクトで活用する地域資源は、三つ。①鷲宮町の町並み・風景、地域にある何気ないストーリー、②アニメによる町興しを通じて構築された、地域住民と交流人口による人的ネットワーク、③それら人材の有する創造性・特に映像産業関連の知識の蓄積。

・ 従来の産業育成の観点から言えば、鷲宮町にはこれといった有力な特産品や産業の蓄積は存在しない。しかしここ数年のアニメによるまちおこしを通じて、我々は既存の何気ない町並みや風景の大切さに気づき、また、少ない昼間人口を補完し、まちづくりに協力してくれる人的ネットワークを構築することができた。これこそが鷲宮町の地域資源であり、これらを活用することで、全く新しい観光資源並びに地域産業を育成することが可能であると考えている。

・ 本プロジェクトのように、既存の町並みや風景・ストーリーを生かし、地域内外の人材の協働により観光資源化・産業化し、交流人口の増大をはかっていく試みは、昼間人口の減少や過疎に悩む地方中心都市にとって、大きな希望を与える先駆的な事例となると確信する。

■事業計画

・ 地域発の映像作品として「何気ないコトやモノ・人」「取るに足らないことでも大事なこと」をテーマに一般の方から原案を募集し制作する。同時に、映像作品に登場する食べ物やキャラクターなども「萌え」をテーマに鷲宮の資源でもある人のネットワークを用いて募集し併せて制作を行う。
・ 放映後、映像作品に登場した食べ物やキャラクターの商品化展開を促進する。更には二次創作物として同人誌等の作品の制作も鷲宮の有する人のネットワークを用いて展開していく。
・ 地域発の映像作品を核とした「何気ない」「萌え」ブランド・独自コンテンツの創出。

◆「鷲宮☆物語」の物語◆

2008 年	
8 月	北川監督から鷲宮町商工会に電話。
9 月～	関係者が定期的に意見交換。「鷲宮☆物語～序章～」の企画・製作が進む。
2009 年	
3 月 3 日	3 月 3 日、「鷲宮町商工会の新たな挑戦！まちおこしドラマ「鷲宮☆物語（仮題）」～あなたも一緒にまちおこし～」企画案の一般募集開始。鷲宮町商工会と埼玉県産業労働部新産業育成課との共催事業。同日、スキップシティチャンネルにて告知映像「鷲宮☆物語～序章～」の配信開始。4 月末までで約 12,000 アクセスを記録。
5 月 8 日	5 月 8 日、「鷲宮町商工会の新たな挑戦！まちおこしドラマ「鷲宮☆物語（仮題）」～あなたも一緒にまちおこし～」企画案の一般募集終了。66 通の企画案が集まる。
4 月 15 日～	スキップシティチャンネルにて告知映像「鷲宮☆物語～エピローグ～（13 分）の配信開始。☞http://www.skipcity.jp/channel/ord/washi_index.html
4 月 23 日	鷲宮ドラマ製作企画が、中小企業庁「地域資源∞全国展開プロジェクト」補助金助成事業に採択される。
5 月 26 日	第 1 回鷲宮ドラマ製作委員会開催（於鷲宮町商工会）
7 月 8 日	第 2 回鷲宮ドラマ製作委員会開催（於鷲宮町商工会）
8 月	鷲宮町にてロケハン
9 月上旬	鷲宮町にて撮影
2010 年	
3 月 22 日	中央公民館ならびにコミュニティ広場にて『鷲宮☆物語』上映会開催。
4 月 10 日	ワーナー・マイカル・シネマズ羽生にて『鷲宮☆物語』上映開始。4 月 23 日まで。（当初予定は 16 日まで。）
6 月 26 日	TOYAKO マンガ・アニメフェスタ 2010（北海道虻田郡洞爺湖町洞爺湖温泉）にて『鷲宮☆物語』上映。
7 月 28 日	SKIP シティ国際 D シネマ映画祭にて『鷲宮☆物語』上映。
11 月 13 日	円頓寺映画祭 2010（名古屋市西区）にて『鷲宮☆物語』上映。
11 月 27 日	鷲宮町西コミュニティセンターおおとり（久喜市）にて『鷲宮☆物語』上映。

（年表制作）山村高淑・松本真治